

セタシジミ種苗生産放流結果

久米 弘人・大澤 宏史

1. 研究目的

かつてセタシジミの主要漁場であった南湖のセタシジミ資源を回復させるため、セタシジミ種苗生産放流を行った。

2. 研究方法

D型仔貝種苗生産は滋賀県水産試験場研究報告第45号に記載されているマニュアルをもとに行った。D型仔貝種苗(写真1)放流は船の速度を時速7~8kmで航行しながら水中ポンプの水流でD型仔貝種苗を湖底に落とすように行った。育成稚貝放流はD型仔貝種苗放流と同様の速度で航行しながら、攪拌した種苗を柄杓で蒔きながら放流した(写真2)。

3. 研究結果

種苗生産に使用した親貝は4月から8月に採捕され(操業禁止期間の特別採捕許可による採捕を含む)合計で493.8kgであった。採卵に使用した1t水槽はのべ280槽であった。ふ化直後のD型仔貝種苗(殻長約0.2mm)は6月7日から8月6日までの間に12回生産を行い、合計10.1億個を南湖に放流した(図1)。また、D型仔貝の初期育成試験で育成した殻長 0.66 ± 0.19 mm(平均殻長 \pm SD)稚貝(図2)13万個を南湖に放流した。



写真1.セタシジミD型仔貝種苗



写真2.セタシジミ稚貝種苗の放流

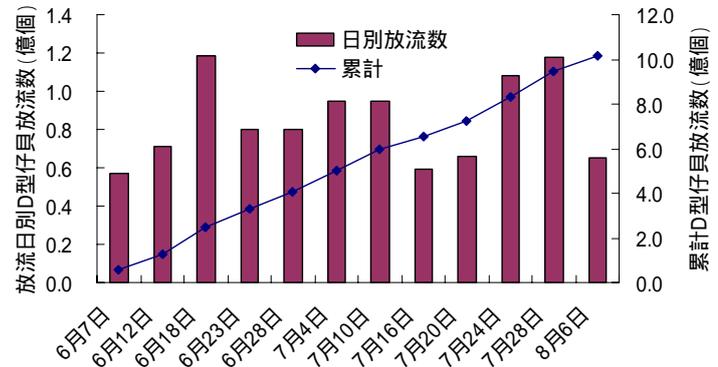


図1.セタシジミD型仔貝種苗放流数

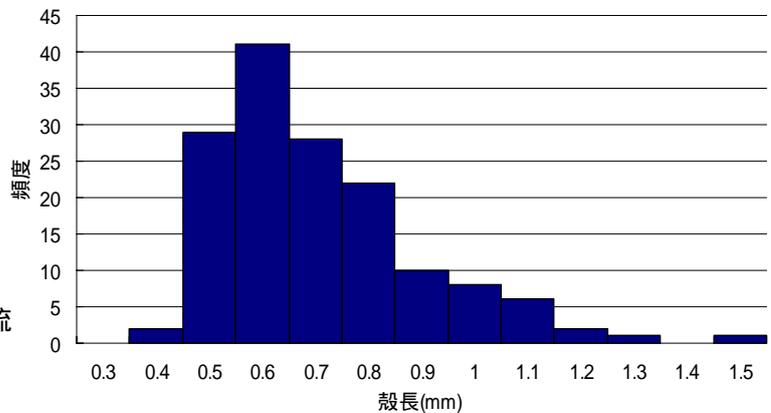


図2.放流稚貝サイズの殻長組成